



令和5年6月27日

「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」

について、公募の結果、4件を選定しました

「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」について、4事業を選定しましたのでお知らせします。

1. 目的

本事業は、薬剤師を取り巻く医療環境の変化や薬剤師の地域偏在、薬学部教育の質保証等の課題に対応するため、大学における、地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）を踏まえた教育プログラムを構築する優れた取組を支援することで、地域で活躍する質の高い薬剤師を養成することを目的としています（参考資料2）。

2. 選定結果

薬剤師養成課程の学部を置く各国公私立大学の学長宛に公募を行った結果、17件の申請があり、地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業推進委員会における審査を踏まえ、4件を選定しました（参考資料1、3）。

3. 審査結果

今回の審査において、地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業推進委員会（委員長：乾 賢一（一般社団法人日本薬学教育学会理事長））から所見が述べられました。（参考資料4）

4. その他

本選定結果は、文部科学省ウェブサイトにも掲載しています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/2023001_00009.htm

<本件に関する問合せ先>

文部科学省高等教育局医学教育課

薬学教育専門官 大久保 正人

薬学教育係長 織内 薫

電話 03-5253-4111 (3326)

「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援」 選定結果一覧

申請件数：17大学、選定件数：4大学

No	区分	大学名	連携大学名	事業名
1	国	広島大学	島根大学	連携で地域医療を支える薬学教育の構築 ～中高大接続から大学・行政・病院薬局連携でシームレスに地域を支えるヒロダイ薬学教育拠点～
2	国	熊本大学	崇城大学	医療デジタル機器・ITを活用し地域医療を改新する薬剤師育成プログラム ～へき地医療崩壊・災害医療の問題を抱える南九州・沖縄地域からの次世代薬剤師像の提案～
3	公	名古屋市立大学	岐阜薬科大学 静岡県立大学 鈴鹿医療科学大学	東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築
4	公	山陽小野田市立 山口東京理科大学	-	山口県が抱える薬剤師の地域偏在と在宅医療の問題を解決する先進的な薬剤師養成プログラム

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業概要

大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業

令和5年度予算額 0.3億円
(新規)



地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援

背景・課題

- 少子高齢化の進展等の医療環境の変化を背景に、薬学教育において地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）への対応が求められている。
- 「6年制課程における薬学部教育の質保証に関するとりまとめ」（薬学系人材養成の在り方に関する検討会 令和4年8月）を踏まえ、大学と自治体等が連携し、地域に貢献する意欲のある学生を選抜し、卒後のキャリアパスにつなげていくこと、地域医療等に関する教育プログラムの策定・実施等が必要とされている。
- 大学の薬剤師養成課程においては、地方自治体、関係団体等が有機的に連携し、各地域の医療ニーズを踏まえた教育・実践を通して、地域で活躍する質の高い薬剤師の養成が求められている。

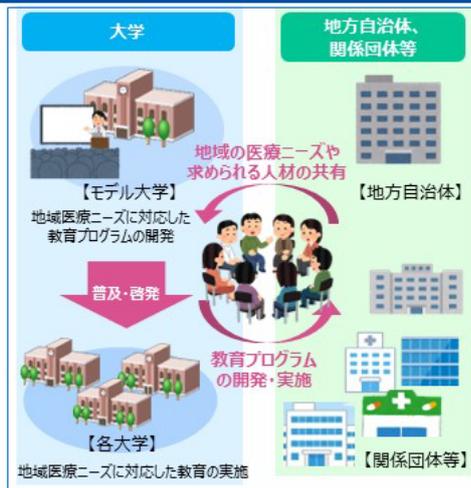


事業内容

- 医療ニーズを踏まえた地域医療に関する薬学教育プログラムの構築・実施
 - ◆ 地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）に対応するため、地域の特性を踏まえた薬学教育を行うとともに地域医療への関心を涵養する。
 - ◆ 自治体、関係団体等との連携体制を構築し、地域の医療ニーズに合わせた卒後のキャリアパスにつなげていく薬学教育プログラム、薬学教育コンテンツの開発等を行うとともに、先行事例として地域の大学等とも共有する。

地域の最新の医療ニーズを踏まえた高度な薬剤師を養成

- 事業実施期間： 令和5年～令和7年（予定）
- 交付先： 大学（複数大学での連携も可能）
- 件数・単価： 4大学×800万円
- 必要経費
 - ・薬学教育プログラムの開発及び薬学教育コンテンツの作成費（地域の医療ニーズの把握、教育内容の調査研究費）
 - ・大学関係者と自治体、関係団体等による検討経費
 - ・大学関係者と自治体、関係団体等とを結ぶコーディネーターの人件費
 - ・研修会やシンポジウム等の開催費 等



6年制課程における薬学部教育の質の保証に関するとりまとめ（令和4年8月 薬学系人材養成の在り方に関する検討会）

- 薬剤師の地域偏在の解消にあたっては、大学と地方自治体等が連携して対応することが重要であり、薬剤師の偏在対策に資する地域枠等の定員枠の設定等により、地域に貢献する意欲のある学生を選抜し、卒後のキャリア形成とつなげていく必要がある。併せて、各大学において、地方自治体や薬局・病院等と連携し、地域の中高生等に対して薬剤師の魅力について理解を促進することも有効である。また、国においても、（中略）大学と地方自治体等が連携する中前・卒後の取組に対する支援を行う必要がある。
- 各大学における、在宅医療を含む地域医療や薬剤師の偏在（地域偏在や薬局薬剤師に比べて病院薬剤師が不足していること（業態偏在））等に関する教育プログラムの策定・実施を通して、薬剤師の果たす役割に関する教員及び学生の意識を醸成していくことも重要である。

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
推進委員会 委員名簿

※五十音順（敬称略）

乾 賢一	一般社団法人日本薬学教育学会 理事長
向後 麻里	昭和大学薬学部 教授
本間 浩	一般社団法人薬学教育協議会 代表理事
眞野 康成	東北大学病院 教授・薬剤部長
安原 眞人	帝京大学薬学部 特任教授

計5名

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
推進委員会 専門委員名簿

※五十音順（敬称略）

賀川 義之	静岡県立大学薬学部 教授
萱野 勇一郎	大阪府済生会中津病院 薬剤部長
小暮 健太郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授
長谷川 洋一	名城大学薬学部 教授
室井 延之	神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部長
矢野 育子	神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長
山本 康次郎	群馬大学大学院医学系研究科 教授

計7名

令和5年6月27日

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業 推進委員会 所見

近年、少子高齢化の進展等を背景に、薬剤師を取り巻く医療環境の著しい変化等により、薬学教育において地域の医療ニーズ（へき地医療、在宅医療等）への対応が求められています。

また、「6年制課程における薬学部教育の質の保証に関するとりまとめ」（令和4年8月 薬学系人材養成の在り方に関する検討会）においては、「薬剤師の地域偏在の解消にあたっては、大学と地方自治体等が連携して対応することが重要であり、（中略）地域に貢献する意欲のある学生を選抜し、卒後のキャリア形成とつなげていく必要がある。」、「国においても、（中略）大学と地方自治体等が連携する卒前・卒後の取組に対する支援を行う必要がある。」、「各大学における、在宅医療を含む地域医療や薬剤師の偏在（地域偏在や薬局薬剤師に比べて病院薬剤師が不足していること（業態偏在））等に関する教育プログラムの策定・実施を通して、薬剤師の果たす役割に関する教員及び学生の意識を醸成していくことも重要である。」と指摘されたところです。

こうした状況を踏まえ、地域医療に関する薬学教育プログラムの構築・実施に取り組み、地域の最新の医療ニーズを踏まえた高度な薬剤師の養成を行うことを目的として、公募を行いました。

公募の結果、17件（連携校を含め27大学）の事業の申請を受け付けたことに感謝の意を表します。本委員会において書面審査、面接審査、合議審査を実施し、全体構成の優秀性や運営体制、事業の継続・成果の普及に関する構想の妥当性等について、特に優れた4件の事業を選定しました。

今回、選定された大学は各取組とも、実現性が高く、創意工夫されたものとなっておりますが、本委員会が指摘した改善に関する所見を踏まえた着実な改善に取り組んでいただくとともに、事業計画を確実かつ迅速に実行していただきたいと考えます。

加えて、選定された各大学には、地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育を実施するという決意を持って取り組んでいただくとともに、下記の点を期待します。

- ・他大学・他地域の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。

- ・長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な取組として、他職種や自治体等との連携をこれまで以上に実施できるよう工夫して取り組むこと。

一方、今回、特徴的な提案であっても、事業の構想・計画の具体性の観点等から、相対比較の結果、残念ながら選定に至らなかった取組がありました。選定されなかった各大学においても、申請いただいた事業に対する本委員会の所見をお伝えしますので参考にさせていただくとともに、今後も本事業の趣旨を生かし、地域で活躍する質の高い薬剤師の養成に取り組んでいただくことを強く期待します。

終わりに、大学・自治体等の関係団体が一丸となって地域医療への貢献に積極的に取り組むことは非常に大切なことと考えます。本事業を通じて、地域や社会の期待に応える薬学教育が推進されることを希望しております。

地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
推進委員会
委員長 乾 賢一